

五二〇 受信二二二四  
 譯始二二四五  
 譯了二三一五  
 電一〇〇二二五  
 二六  
 參作  
 本概

機密第 四五番電 二分ノ二二

千島防備部隊 着信艦所

千島根

千防戰鬪遠報第二號

二十日一八一五大型驅逐艦五隻一八〇度一五〇〇ニ發見一八三五ヨリ  
 一八五二迄ノ間概ネ四〇〇〇附近ニテ摺鉢棧橋及飛行場附近ヲ砲撃シ一  
 〇度方向ニ避退ス陸軍戰鬪機二機發進摺鉢沖ニ於テ目下交戰中陸上火砲  
 二五耗ノ外全部轉送終了セルニ付發砲セズ被害棧橋附近二個所炎上中其  
 ノ他目下調査中艦船ニ被害ナシ。

通一三三六一一三八一 天田B(日) 大津 片山(吉) 田

昭和五年五月廿五日

五二二 受信開始 〇〇二五〇 譯了 〇三三五 電 一〇一八二 作 概 〇



● 二六特根 戰團 報着 信艦 所 三南 遣艦 隊 P  
● 二六特根 P  
三南 遣艦 隊 各 P

機密第二〇二一〇〇番電

六KB 戰團 艦隊 二十日

一、タルハ 出港 十九日 一八〇〇 輪送船 中型 二艘 逐艦 二 驅潛艇 一 海上  
ト ラ ツ タ 四針 路 東入 港 驅逐艦 一 輪送船 中型 二 小型 三 兵員 滿載 上陸 用  
舟艇 一 碇泊 狀 沉煙 霧 ノ 爲 不明

云々 口 タ イ 發進 機針 路北 乃至 西 大型 四 一 中型 一 三 小型 八 計 六二。

一四四五 呂 一五ヲ 十八 (六一二 二五七) 二十一 通岡野 (半澤)

昭和廿年五月廿四日

五二二

受信一六〇八

認了二八〇六

一〇〇四三二

參作本

昭和廿五年五月廿四日



● 海軍總司令部

● 高雄警備司令部

海軍總司令部指播官・南西方面艦隊司令部・一航空隊司令部・支那方面艦隊司令部  
二海軍支隊司令部・海軍司令部・臺灣航空隊司令部・高雄陸根司令部・馬公陸根司令部  
基隆防備隊司令部・高雄警備隊司令部

機密第一〇二二三三〇番電 二分ノ六二



五月十九日來襲狀況

一〇八二〇ヨリ一三〇〇迄戰爆聯合約二〇〇機 (B-I二機) 八〇機

B-I二機 四〇機 P-I三機 五〇機 P-I五機 四〇機 (南方ヨリ)

南西兩岸ヲ北上臺中及臺北基隆地區ニ侵入豐原街ニ水街基隆港灣  
施設竝ニ同市街ヲ燬壞一部ヲ以テ北郊各航空基地 (宜蘭桃園龍潭  
上大和) 及宜蘭花蓮港市街並ニ新竹地區部落ヲ攻撃ノ後南方ニ

除去ス

一六八〇〇 五月一八日 (一三三) 高雄 相澤 (岩崎) (4)

Y

三二二〇〇ヨリ一四〇〇迄B一二十五 二機PB四Y一機東西兩岸ヲ

哨戒機ニP一三八 二機臺中地區ヲ 偵察

三二〇三〇ヨリ二十日〇二三〇迄臺北高雄地區ニ各一機侵入別ニ一

機ハ宜蘭魚洋上ニテ船舶攻撃炎上船ニ南岸哨戒ノ後退去セル大型

機二機アリ

四〇三四二B一三四 一機臺北市ニ侵入燒夷彈數發投下後西南方ニ

退去

五戰果B一二匹 一機撃墜P一三八 一機撃破(海軍側)P一五一

一機撃墜(陸軍側)

六被害(各地綜合)

(イ)海軍側基隆運輸部中破

(ロ)陸軍側宿舍全燒四機傷一

(ハ)民間側家屋全一又ハ全燒一一〇〇戸死者一七名負傷二〇名

(ニ)其他二水縣中破國民學校舍三中破鐵道線路二五米中破電線斷

(2)



二二二 受信二七二〇三 了二三一〇 電一〇九九一 参作 本鑑



三〇時根戰團報着信艦所

四六警 信 隊

機密第二一〇五三〇番

四六警戰團報第一三七號二十日

一、一一一五一一二一五SB二〇一 四機四〇一 一機來襲主ト

シテ舊方位測定所附近ニ投醜全島餘警偵察

ニヤツブ島南東敵艦船〇九〇〇發送船一隻八千噸級西南航一一〇〇及

一二〇〇發送船各一隻東航・〇五五五噸級五隻南方五渚ヲ經日哨

戒(十八日以降毎日同一海面ヲ哨戒ナルハ特異ナリ)尙當方面航行

艦船ハ數日前ヨリ護衛艦ヲ附セズ。

通一二二二〇二 日一B二十四(一三七七)三通 藤井(松樹)

昭和廿年五月廿七日

人

五 一二二 受信機一六〇五 譯了一八五〇 電一〇九二一 海整基

九〇一空(大浦水上基地)

九〇一空(山崎航空基地)

海上設備總部隊△・航空本部・九〇一空

機密第一一〇九一八番電

機密第二〇一〇(四五番電返)

一、他部隊(舊吳空大浦基地)ニテ使用中ノモノ一式短移動・三式一型受各一組増備ノ豫定

二、故障申ノモノ三式營五號送信機用整流器(福岡航空廠ニテ修理中)

海一五一九 テニBケ一( B ) 吳 青 木 ( 春日 )

昭和四年五月廿七日

人

五二六 受信一七三九五 詳一九二〇 電一〇六二六



又那方面艦隊中・南泉方面作戦部隊谷下  
海上護衛艦隊中・三航空隊隊中・谷下  
高年根下馬公根下・臺灣航空隊  
一航空隊隊中  
板巻第二一〇二〇番艦

發 高曾參謀長

知 大本營海軍參謀部第三部長

五月十七日十八日ノ敵空襲時油断燃料ノ代リニドラム油入り  
油ヲ投下セリ着火及燃焼機ノテ艦員ナルモノノ如シ。

一七〇〇 四一〇七十八(九八三〇) 伍二放

大野(代)

昭和五年五月廿七日  
作機  
單機  
以請

昭和四年五月廿五日

五 二 一 受傳一三三三  
譯始一三五八  
譯了一四三二 電一〇三八八  
航作 本機 〇

495



● 南東方面艦隊口・四・八各艦隊口  
● 東通・海軍總隊口・横隊口・父根口

機密第二二一〇二六番電

通報 大本營海軍參謀部第一部長 大本營海軍部戰力補給部長 軍務局  
長 航空本部總務部長

貴機密第二〇〇六一〇番電關聯

一 當基地機密第一九一〇一五番電ニ依ル晴空行動豫定ノ一部ヲ左ノ通變  
更ス 一 號艇「PT」便一二十五日一七〇〇NB B 發二十六日一七〇〇  
PT 發歸投

二 NB B 呼出符號エ五毛四

通一六二六 呂一Bヲ十八 横邊 村尾(新井)



人

五 二一

受信一八二四  
譯始二〇〇〇

譯了二〇五〇

電一〇〇四八七六

參作  
本概

千島方面根

千島防備部隊戰聞概報着信艦所

機密第二一一一一二二番電 五分ノ二二



千防戰聞概報第一二六號（五月二十日）

第一次〇九一〇中型二超低空ニテ國端ヨリ侵入今井崎附近偵察後四〇度  
方向ニ避退投彈セズ第二次一六三〇中型七超低空ニテ國端ヨリ侵入薩ノ

間小谷島銃爆一七〇〇北東方向ニ避退戰果陸軍戰聞機及地上砲火ニ依

リ二機墜（内一機墜陸軍）捕虜六名ノ間陸軍於テ捕獲目下陸海軍ニ

テ取調中 被害ナシ天候晴 北西ノ風一五米視界一〇新摺鉢灣艦砲射撃

ニ對スル戰聞概報ハ千根機密第二〇一九四五番電（千防戰聞遠報三三三

四號）ノ外第五二番機密司令ヲシテ報告セシム

通一一七六一 天田 B 六十一（ B ）大通 林、午時（雨）谷

昭和廿五年五月廿五日

人

五二一 受信一九四五 譯始一九五六 電一〇五八五 航作概本〇

緊急 母 島 警



父島方面根據地隊 戰鬥概報着信艦所

機密第二一五〇二番電 二分ノ二

497

敵驅逐艦(レントレビット型)二隻母島ノ二〇〇度六〇分ヲ一節位ニテ西南西ニ哨戒シツツアリ 案ズルニ昨夜我陸軍所屬ノ硫黃島攻撃アリ父島ニ我が航空機ノ進出アルヲ否ヲ探知誘引行動ト思考ス今朝來硫黃島上空ハ常ニ二乃至三機哨戒機アリ一四〇〇P五一二機來襲ヒリ 半晴 雲量一〇 雲高一五〇〇米。

通一一七七三 天一Bケ七 (B)横須賀 吉川島(阿波)

昭和廿年五月廿五日

昭和廿年五月廿五日

五二一 受信一八七四二 譯始一八二二三 譯了一九四〇 電一〇〇四六八七 作機

作戰緊急 聯合艦隊口。三ノ五各航空艦隊口 大海參一部 共 符



機密第二一一一五八番電 三分ノ三

航空戰隊概報第十六號 (二十一日)

彩雲一機 (三木大尉機) ○五三〇發 ○八四〇一 ○八五〇偵察一一四

○着 (高度八九〇〇米 天候半晴 雲量七 視界四〇杆)

一 アブラ港在泊艦船

(1) 港内特空母二 (カサブラシカ型 チャーシヤ型) 戰艦一 (アイオ)

ウ型) 巡洋艦二 輸送船大型十七 中型二〇 小型十五

以下三分ノ三

兵 第三飛行場大型機約一七〇機

通 一七三三 呂一〇九十一 (一七六三〇) 四通

武藤 (猪 狩)

六 第四飛行場大型機（B-139）約二五〇機

七 第五飛行場（新設ニシテ略完成北山南部舊椰子林）長サ約三〇〇〇

米幅約二〇〇米ノモノ竝行ニ三本在機ナシ

八 上空哨戒機約八機高度約六〇〇〇米ヨリ追躡ヲ受ク

九 寫眞判讀ノ結果後報ス。

（電信課註）本電三分ノ二未着



五二二 受信一〇四五三 譯丁一三〇〇 電一〇一四九 整作

昭和廿五年五月廿七日



東通 佐通・吳通

機密第二一一五五二番電 二分ノ二

三木工旋盤任切帶鋸機破損新品ト換装ヲ要ス

三揚錨機用電動發電機左舷側ノモノ破損修理不能新品ト換装ヲ要ス

六入渠手續セバ工事期間約一箇月ノ豫定

七木工機械及揚錨機用電動發電機急送ヲ待度

一東洋社 本文中四五ナシ  
一電信課 本電二分ノ一既配布

通一一〇二三 呂一五ヶ十一 (五二〇〇KC) 佐通 中果 (三石)

五二二 受信 〇〇三三五

譯了 〇三二一 一〇六一二

航作概本 〇

昭和廿五年五月廿七日



東京灣北航路部隊指揮官

東京通信隊。館山航空隊

機密第二一一七二二番電

海軍・GF長官 GEB長官 大海 東京灣部隊指揮官

鎮守府令作第一二七號

BI二四八連日九十九里濱方面ニ低空來襲通航船舶出漁漁船ヲ銃爆  
スルト共ニ沿岸偵察ヲ實施シツツアリ東部海面防備部隊指揮官ハ  
子房浦野島崎附近ニ對空砲火有力艦艇一成ルベク驅潛特務艦監視艦  
ニ二十五機銃ヲ裝備セルモノ可トス。配備之方擊墜並ニ交通漁  
業保護ニ任ズベシ。

一一八八 三一三一 (B) 似通

(出中)

昭和十一年五月廿七日

五二二 緊急 受信二一〇五七三 譯了二三〇一 電一〇五四一 譯 通

海上護衛艦口。野寒時報着信處所

共 符

501

發 大濤航空隊

宛 海上全船船

野寒情報「オホツク海」及間宮海峡ニテ國籍不明潜水艦ヲ發見セリ

一、北緯四九度二〇分東經一四八度二〇分（樺太北知床東方約二一〇

哩）ニテ國籍不明潜水艦アリ監視ヲ嚴ニセヨ（一六一五受）

二、「ドエ」北樺太西港南方ノ際ニ國籍不明ノ潜水艦ヲ發見見張

ヲ嚴ニスベシ（一六一九受）

通 一一八〇三

呂 一 B ケ十一

B

大濤

安彦（瀧瀬）

五 三二  
至 急

受信一七五〇  
開始一八三五

譯了一九五五 電一一〇一七

航作概本〇



東京通信線、海軍線除口

高 警 口

海護線口、支那方面艦隊口、南西方面艦隊口、一航空艦隊口  
二通信支艦隊口、臺灣空、海南警口、佐領口、基隆防備隊  
高雄警備隊、高警部隊

機密第二一一九三〇番電

二分ノ二

三 被害

(イ) 新竹地區線路大破六ヶ所（竹南驛附近）省客車大破一〇倉庫  
全壞六家屋全壞四五半壞五〇

(ロ) 臺中地區パルプ工場、製粉工場各一棟倉庫四棟家屋四全壞

(ハ) 臺南地區明治製糖會社小破家屋全壞一九死傷者一六

四 戰界

ナシ。 電信線註 本電二分ノ一未着

通一二三二二七 呂一月三十八（一三五二〇）高 雄内山（塔田）



作

五 二二 受信 〇〇八五五 〇五 譯了 一〇五〇 電 一〇七一三 參作 本機

三〇根 機密第二一九三五番電 二分ノ一

ヤツブ空基地・四六警備隊

機密第二一九三五番電 二分ノ一

三〇根據地隊戰闘概報（五月二十一日）

一、バラオ附近行動敵艦船

(イ) 〇七二五ヨリ一〇〇迄大型輸送船二（何レモ八千噸級滿載）コス  
ソル水道入港

(ロ) 一四三〇ヨリ一五二〇迄大型輸送船二（七千噸八千噸滿載）大型油  
槽船一（一萬噸級滿載）コスソル水道出港 荷一五二〇出港ノ大型  
油槽船一（一萬噸級甲板飛行機六搭載）ハ本島東方海面ヲ北上ノ  
輸送船二ト合同東進セリ。

一、電信誤註 本電二分ノ二未着  
通 一一九九七 呂一ブラ十四（一五七一〇EG）三通 石川（山中）

昭和廿五年五月廿七日

5600

先考  
作

五

受信開始  
〇九一六

了  
一三〇一

電  
〇七八九

作概本

局長					
一課長					
A					
B					
E					
J					
F					

三〇根隊圖報着信處所

五航空艦隊旗艦・先遣部隊旗艦

ヤツブ航空基地・四六警備隊

機密第二一一九三五番電 二分ノ二

W〇八三〇大型輸送船二PFP發東航

二視界内敵艦船碇泊狀況

W) コスソル水道大型輸送船一小型輸送船三大型油糧船三小型油糧船

一小艦艇十一

W) PFP周邊驅逐艦一小艦艇四

三昨二十日一八五〇ヨリ二三一五迄夜戰四 〇六三〇ヨリ一七〇五迄

三昨二〇〇〇 島一Bラ十八 (一五七一〇K) 三遊 大内(三石)(H)

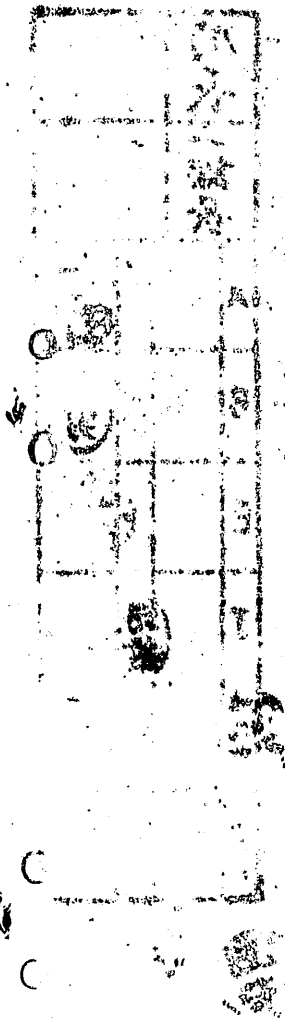
昭和廿五年五月廿七日

504

P 四 U J 一 延 十 四 T B F I 一 五 P B Y I 一 一 計 二 十 四 P P 二  
來 襲 銃 爆 撃

四 敵 機 P P P 發 着 一 六 〇 〇 迄 輸 送 機 四 〇 度 へ 一 一 九 〇 度 へ 一 七 〇  
二 七 〇 度 へ 發 三 一 八 〇 度 ヨリ 六 二 七 〇 度 ヨリ 着 B I 二 五 一  
六 〇 度 ヨリ 着

一 電 信 誤 註 本 電 二 分 ノ 一 既 配 布 一





五 二二 受信一五四一 譯了一八二六 電一〇八八七 作稿〇  
譯始一六二二 參本

符

合 後 際 口

機密第二一一九四三電

照參電第四二三號二十一日ハラ才時報

一〇七〇〇一八〇〇迄ノ「コスソル」狀況左ノ如シ

出港廠發船二（八千噸級滿載）油槽船二（一萬噸級滿載）内一（

甲板上海行被六搭載）油槽船二入泊（糸船二（八〇〇噸級滿載）

三一八〇〇ニ於ケル「コスソル」狀況左ノ如シ

油槽船八油槽船四油槽船七大發一 船一舟艇二

進一二一四七 品一Bラ十四（一五七一〇）三〇通 坂本（案）

昭和廿一年五月廿七日



五 二二 受

五 二二

受信 一〇五五  
始 一〇五五  
了 一五〇五  
電 一〇〇八  
一七六  
作  
概

至 急

○ 閩門防備部隊

七 隊各



吳門・佐門・警門・門司在勸武官  
若松在勸武官・吳防備戰隊

機密第二二二〇〇〇番電三分ノ二

戰圖速報 (二十一日)

一、〇〇四〇一〇三〇五迄敵 B I 29 約八機西口機雷ヲ敷設

二、掃海兵力 (兵器) (區域)

(1) 四掃特務艇一 (P式) 第一水道 N M

(2) 四掃特務艇二大發二機漁船二隻 (五式) L K O

(3) 四掃特務艇四 (三式) B C

(4) 機漁船二隻 (發音艇) 第一第三水道

一 二〇〇四 天二 B 分 九八三 (四) 佐二 安 田 (石井) (1)

昭和廿一年五月廿七號

三處分機雷音響機雷二磁氣機雷五（五式二・三式三）計七箇

(イ) 〇八二二蓋井燈臺一〇七度一七〇〇米一箇誘爆

(ロ) 一〇五五大毛シ燈臺ノ三四度二一〇〇米一箇處分

(ハ) 一一四〇大毛シ燈臺ノ二一度四四〇〇米一個處分

(ニ) 一二〇五大毛シ燈臺ノ八六度四六〇〇米一個處分

(ホ) 一二三七大毛シ燈臺ノ九四・五度四四八〇米一個處分。

〆電信課註 本電二分ノ三未着

(2)

至急

五二二

受信開始 〇〇一〇一五

了 〇二二五

電一〇五九三

參作本概

母島警備隊

父島特根戰闘概報着信艦所



機密第二二二〇二五番電 二分ノ六二

戰闘概報 (五月二十一日)

一、一四一五 P 一五 十二機二二〇度方向ヨリ本島西海岸ヲ北上父島

空襲後南下ス本島銃爆墜南方ニ脱去セリ 驅逐艦一 一四二〇頃ヨリ

母島ノ二一〇度ヨリ二六〇度五〇料附近游弋一九〇〇南方ニ退去セリ

三、戦果ナシ被害戦死二名

三、發射彈數(一門平均殘彈數)二十五 機銃一五〇(一六六七)十二

機高角砲三五(一九) 機銃一六〇(一五三一)

通一一八五四八 天一 B ケ七 ( B ) 母艦 村山、丸山 (猪狩)

昭和廿年五月廿五

人

五二二

受信開始 〇〇一四三八

了 〇二五一 電 一〇六〇一

參作  
本概

昭和廿五年五月廿七日

緊急



二六根戰團概報着信處所・三南道艦隊口  
三南道艦隊除冬

機密 第二一三〇四三番電

六KB 戰團概報二十一日

一、タルバ出港口一假泊地、一海上トラツタニ針路東碓泊狀況煙霧ノ爲不明

二、モロタイ島發進機針路北乃至西大型十九中型十二飛行艇一不明八計四〇。

0101

通一一九〇八 呂一Bラ十八(六一三三五KG) 二一通 池阪(土谷)





下

五 二二 受信〇〇四一五〇 譯了〇八五五 電一〇六九八 航作機〇  
 譯始〇〇四一五〇



● ● 古仁屋空基地・博多空  
 ● ● 一航空艦隊

機密等二二〇〇一二番電

發 飛行隊長

六三四航空隊司令 通報 偵察第三〇二飛行隊小富士空

一、第一次轉進員一〇六(加藤中尉以下搭乗員全部整備科六通信科主任)

計科一(本二十一日小富士基地へ出發トシノタリ)

二、零式水偵一機明後二十三日博多基地ニ向ケ出發トシムル豫定同機ハ

電探空中 交機ヲ要ス

通一一九五六 局一Bケ十一(三七三〇K)鹿屋空基地 小泉(五島)

昭和廿五年五月廿七日

海軍 第一〇七三一  
海軍 本在海

海軍 護 總 部 隊  
符  
大海參一部。重務局。機本二部二課。海軍總務部。第一艦隊司令部  
海軍總隊口。參本。六艦隊口。支隊方面總隊口。三一戰隊口

機密第二二〇〇四〇番電

宛 第一二線司令部 船舶司令部

DEB 機雷情報第三八號

(一) 下關海峽南口及西口ニ於テ二十一日一二〇〇現在航行許可セラレア

ル水道左ノ通

(イ) 南口

南水道(但シ部埼附近ハ九州寄りニ緩唐岸航行スルヲ要ス)

(ロ) 西口

北九州水道(帆船等小型船舶航行)及若松港出入航行

通電〇三三三〇六七 天二Bケ十一 (於山) (4)

0404

(二) 二十一日〇一二〇頃敵艦ハ部塔東方海面艦雷發設部塔泊地中網ノ塔  
 ノ東西線以南ニ於ケル碇泊及部塔前田間航行禁止

(三) 二十一日〇一二〇頃敵艦ハ無難灣外博奕塔ノ西一〇〇〇米以上ノ海  
 面及宮津灣ニ艦雷發設セシ舞鶴灣出入碇船ハ博奕塔ノ西岸ニ〇〇米  
 以内ヲ航行スルヲ要ス。







一、二、三〇母島約二一五度方向ニ砲聲ヲシキ斷續的ニ轟音約五分間  
 二、二、三〇母島ノ一八二度（硫黃島）附近ニ於テ三回位轟音當時硫  
 黃島上空出沒ノ小型機ヲシキ電波形ニ乃至三ヲ約一〇分間探知  
 三、二、三〇母島ノ一八二度（硫黃島）附近ニ於テ二乃至三右以外ノ  
 轟音アリ。

五 三二 受信二一〇五六

詳了二二二二五 電一〇九六四

参作 本機

昭和七年五月廿七日

742

父島方面戰局概観着信處所

父島通信隊

秘密第二二〇八〇五番電

父島特根戰局概報（五月二十一日）

一、敵哨戒機ラシキモノ二回電測セリ 其ノ他來襲セズ

二、二十一日一四二〇ヨリ一五〇分ニ至リ一五一一 一九 敵來襲主トシテ甲矢山

地ヲ銃爆撃シテ〇〇ヨリ〇五〇〇ニ至リ南下漏跡アリ 敵哨戒機

ラシキモノ五回電測セリ

三、戦果甚善ナシ。

一二二九七

天二Bケ十一（B）機通

坂本（山中）

五 二二

受信一八七二〇  
譯始一八〇四

譯了一九五六 電一〇九二四 作

紙〇

九〇一 空

514



海上護衛總司令部

九〇一 空總派遣隊

機密第二二二一〇二九番電

宛 參謀長

事務簡捷用紙節約ノ爲爾今對潛兵力現狀調ハ搭乗者飛行月報整備員位  
備要表ノ調整提出ヲ取止メ飛時日誌ハ當隊各派遣隊ニテ之ヲ調整セズ  
本隊ニテ取纏メ提出戰團詳報ハ敵ト交戦セル程度所定ノ表式ニヨリ提  
出ノコトト致度。

通一二二〇八 呂上〇(三)吳

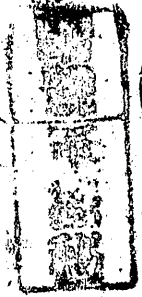
山本(吉)田

昭和廿五年五月廿七日

0110

五 二二二 受信一四三三四 開始一四一〇四 譯了 一五二五 電一〇七九六 作概〇

昭和廿年五月廿七日



東京灣部隊 △

東 通・横 通・三區部隊女川隊 ↑

秘 密 第 二 二 一 〇 四 〇 番 電

發 東部海面防備部隊指揮官

通 報 横 鎮 參 謀 長 G B 參 謀 長 海上護衛總司令部參謀長 館山空

電 令 作 第 六 五 號

横 鎮 電 令 作 第 一 二 七 二 關 聯

東京灣部隊指揮官ハ銚子勝浦野間崎附近ニ對空砲火有力艦艇三隻ヲ 配シ主トシテ敵機ノ襲撃及海上交通漁業ノ保護ニ任ゼシムベシ。

通 一 二 一 〇 一 テニ B ケー一 ( B ) 横須賀 内 田 ( 春 日 )

五二二 受信一五四八 譯了一八〇一 電一〇八九三 謀通  
譯始一六一二

鹿屋航空基地

情報報着信艦所

機密第二二二一九番電

情報第四號

五月二十一日電話傍受ニ依レバ從來B一二九ノ本土來襲航路上ニ在  
リテ(硫黃島一マリアナ間)連絡ヲナセル哨戒艦(INYINSI  
BLE)ハ二十一日一七〇五沖繩方面港灣補給一般(二七一六KC)  
電話ニ出系TROJAN(二二〇七KC)ト連絡ヲトルハ該艦ノ沖繩  
方面トノ關係有リ始メタルコトヲ示唆シアリ。

通一二一四五 呂一Bケ七(七八七五KC)一KFGB  
才木(林部)

昭和廿五年五月廿七號



人

五 一二二 受信一七六一九 請了 一七二八 電 一〇八八五二一  
 至急 施作 概本

作

各領各管各口・第一、第二、第三各特攻戦隊  
 第四、第五、第一〇各特攻戦隊

東京通信隊

機密第二二二二二四三番電 二分ノ一二

發 G B 参謀長

宛 各突撃隊

通報 施設本部長 特長部長

道成中ノ特攻進取ノ偽裝隱蔽ニ關シテハ屢々注意ヲ喚起セラレツツ  
 アルモ視察ノ成果ニ依レバ左ノ諸點ニ於テ尙不徹底ナル所アリ蓋地  
 ノ秘匿ハ特以兵船用法上ノ絕對的條件ナルニ鑑ミ工專中偽裝隱蔽ニ

一 二 一 六 五 八 四 呂 一 一 一 一 (B) (G F 戸 村尾 (和川) (一)

昭和五年五月廿七日

關シ尙一層ノ研究努力ト指導方取計ハレ度

(一) 斜路軌道等全然偽裝セザルモノ偽裝スルモ四周情況ニ適合セザルモノ

(二) 隧道入口ヲ暴露ノ儘偽裝セザルモノ

(三) 搬出セル土砂ヲ隧道近クニ放棄ノ儘偽裝セザルモノ

(四) 偽裝ニ使用セル材料既ニ荒竭セルモノ。

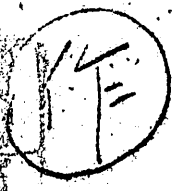
昭和五年五月廿七日

五 二二 受信一六五五 開始一七五八 了了一八三五 電一〇八九一 航作概本〇

至 急

五三航戦

518



小松空・五航艦口

航本總務部・舞濱口・聯合艦隊口・名空・三航艦口

機密第二二一四〇三番電

法

當方面白菊ニ依ル洋上航訓練ハ最近Bノ跳梁ニ鑑ミ實施困難ニシテ且G機密第一八一三四七番電ノ次第モアリ遠ニ白菊用訓練基地ヲ日本海沿岸ニ移ス要アリ當方トシテハ差當リ小松ヲ使用致度ニ付然ルベク配慮得度尙飛行機除(白菊約一〇機)二十八日頃小松ニ進出セシメ度

一 二二一九八 呂一Bケ十一(B) 六更津空 福岡(石井)

作

五  
二三  
三三

受信二三三四  
開始〇〇三〇

二三譯了〇一三〇 電一一〇〇五

參作

519 本

口夕敬情遠望善信等所

機密第二二一四三六番電

發見機一九三機內B—二九北行五三南行二七〇—四七・四九B—二四

・一八F六B—一 一六PB B—一 一四視界內艦船〇八〇〇輸送船

三隻驅逐艦二隻五〇度三五埋針路北東輸送船一隻驅逐艦一隻一六〇度

二〇埋輸送船一隻驅逐艦一隻驅逐艦二隻二八〇度二五埋何レE針路西

一二〇〇油槽船一隻輸送船一隻三〇〇度三〇埋輸送船四隻驅逐艦二隻

二一〇度二五埋何レE針路南西輸送船四隻驅逐艦一隻驅逐艦二隻三三

〇度三〇埋針路北東（視認距離）。

通一二四〇〇下下（五一—五〇）四 通 大家（增田）

昭和五年五月廿七日